

(様式5)

調査報告書

外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	<u>11</u>
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を实践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		<u>30</u>

訪問調査日	平成20年 12月 7日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ~ 終了 15時 30分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム サンテ・ヴィラージュ (鹿児島県)
-------------------	--------------------------------

評価調査員の氏名	氏名 <u>中村 朋美</u>
	氏名 <u>浜田 千里</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者・計画作成担当者</u>
	氏名 <u>平岡 留子・浜上 九月美</u> ヒアリングを行った職員数 4 名

<p>※記入方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。 ●「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。 <p>※項目番号について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●外部評価項目は30項目です。 ○「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。 ○「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。 <p>※用語について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある) ●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。 ●職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。 ●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。 <p>関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。</p>
--

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月10日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4671000315号		
法人名	医療法人 圭裕会		
事業所名	グループホーム サンテ・ヴィラージュ		
所在地	鹿児島県指宿市東方8110番地1 (電話) 0993-24-2355		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年12月7日	評価確定日	平成21年1月4日

【情報提供票より】(平成20年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 7月 14日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤10人, 非常勤 6人, 常勤換算	13人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1日800 円	その他の経費(月額)	1日400 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	2名	要介護2	10名		
要介護3	3名	要介護4	3名		
要介護5	要支援2				
年齢	平均 84.3歳	最低	70歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	南記念クリニック・指宿脳神経外科・みなみ歯科
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

観光温泉地の郊外に立地し風雅な趣きある建物で、立ち寄ってみたいくなる雰囲気のあるホームである。ゆったりと広めに設置した浴槽では、温泉入浴が楽しめる。馴染みある品々がさりげなく置いてあり、居心地よく過ごせる配慮が随所に見られる。24時間医療体制が整っており、「各ユニット看護師が配置され早めの判断・対応」「健康は口の中からと口腔管理の重視」「個々に応じた筋力低下を防ぐ取り組み」など、入居者の健康管理が充実し介護の重度化を防いでいる。職員は、その人らしさを尊重したコミュニケーションを大切に、入居者や職員が笑顔で過ごせるような支援を心がけている。行政担当者や同業者、地域住民との連携もよい関係づくりができています。

【重点項目への取組状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題はなかった。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価の意義を理解し、昨年度の評価を改めて確認しながら、各ユニット毎に全職員で時間をかけて取り組み、気付きや見直しの機会になっている。
重点項目 ②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) ホームの現況・行事・事故報告や参加者からの意見など双方向的な話し合いの場となっている。入居者との茶話会や入居者が一人で外出してしまった時の対応など、意見を活かし質の向上に取り組んでいる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見箱の設置や苦情相談窓口の明示がされている。意見など気軽に言いやすいよう配慮し、出された意見は職員で検討し最善の解決が図れるよう努めている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、ホーム活動の紹介や地域の行事など情報交換をしている。地域運動会や催し物の参加、踊りなどのボランティアや中学生の職場体験、研修などの受け入れなど交流に努めている。地域住民の災害時の協力応援体制もある。また、地域の方が気軽にホームに立ち寄り、介護について相談をうけることもある。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初、全職員がグループホームについて理解をしたうえで検討し、つくりあげた独自の理念である。その人らしく尊厳を持って地域の一員として生活が送れることを目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時に理念を説明し、また、理念の掲示による意識付けが図られている。毎日のミーティングや毎月の職員会議でも日々理念を基に話し合い理念の実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、ホーム活動の紹介や地域の行事など情報交換をしている。地域行事などの参加や地域住民の訪問、ボランティアや研修などの受け入れなど交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解している。自己評価は各ユニット毎に全職員で時間をかけて取り組み、気付きや見直しの機会となっている。外部評価後は、評価を活かして職員で検討し質の向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現況報告などや、参加者からの意見など双方向的な話し合いの場となっている。入居者との茶話会や入居者が一人で外出してしまった時の対応などそこでの意見を活かし質の向上に取り組んでいる。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者には、随時ホームの取り組みや課題など伝え相談連携を図っている。行政は現状を理解し積極的に助言や協力を行い、質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の文書送付、家族の訪問時や随時の電話連絡などで、日々の暮らしぶりや健康状態などの報告をしている。金銭管理も個々に応じ報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や苦情相談窓口の明示がされている。意見など気軽に言いやすいよう配慮し、出された意見は職員で検討し最善の解決が図れるよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	一時期職員の交代があったが、運営者や管理者は離職を最小限に抑えるよう努め、現在は落ち着き馴染みの関係ができています。職員が代わる場合には、職員同士連携を図りながら、入居者が不安にならないよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には、資格や経験を考慮し交替で参加している。内部研修は事例を通じた学びや研修報告など行い情報の共有・資質向上を図っている。資格習得に向け応援体制もあり、目標をもって働けるように取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	指宿市や地区の協議会に加入しており、研修会など参加し交流している。近隣のグループホームとは、相互訪問や交流を重ね気軽に相談連携を図れる関係ができており、互いに質の向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	緊急利用で生活状況の把握不足や本人が安心納得しないままサービス利用に至る場合もあるが、通常は入居希望時や入居が決まってから、事前に本人に来てもらいお茶など一緒に飲みながら、雰囲気に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と一緒に生活する中で入居者の喜怒哀楽を共有し、調理や生活風習など入居者から学び、入居者はもてる力を発揮しながら、職員をいたわり励ますなど互いに支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族からの生活歴などの情報や日常生活での会話・動作・表情などから、入居者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意見や要望を聞き、また、日々の申し送りや、毎月のカンファレンスなどで職員は気づきや意見交換をしている。担当学会議を開催し、本人・家族・職員と話し合い、意見を反映した個別の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日の申し送りや毎月のカンファレンスなどで日々状況の把握に努め、3ヶ月毎のモニタリング・6ヶ月毎の介護計画の見直しをしている。状況の変化に応じ課題点など話し合い随時介護計画を見直している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の意向や状況に応じて、通院支援や外泊支援・終末期の支援など柔軟に対応している。24時間医療連携体制や口腔管理の充実など多機能性を活かした支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の納得のもと支障ない限り母体病院を主治医としている。本人・家族の希望や状況に応じ他の医療機関とも連携を図りながら適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時や状況に応じ、重度化や終末期の説明や対応について、本人・家族・医療機関・職員と随時話し合い全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに応じた誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応に心がけている。また、個人情報の取り扱いも留意し適切な管理に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、本人の意向や状況に応じ声かけしながら無理強いすることなく、本人のペースに応じた柔軟な対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや下膳・皿洗いなど、できることは入居者と一緒に行い、職員は入居者と会話しながら楽しく食事ができるよう配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴を基本としているが、状況に応じ柔軟に対応している。温泉なので、一人ずつゆっくり入浴できるように配慮している。入浴が億劫な入居者には声かけなど工夫し無理強いせず支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴やもてる力・趣味などに応じ、掃除や洗濯物たたみ・皿洗い・園芸・新聞雑誌の読み・カレンダーめくり・唄など役割や楽しみごとの支援をしている。また、体操・散歩・買い物・ドライブなど気晴らしの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の意向や状況・天候に応じて、散歩や買い物・ドライブなど外出支援をしている。地域の行事やイベントへの参加・花見・遠足など、外出する機会も多い。また、中庭の観音様参りなど短時間でも戸外にでる支援もしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は入居者の見守りに努め、日中は鍵をかけないケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や地域住民の協力のもと定期的に夜間想定・初期消火・避難訓練を実施している。非常時に備え、食品などの備蓄もしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が作成した献立を基に栄養バランスの取れた食事を提供している。個々人の食事摂取量や水分量の把握をしている。また入居者の意向や状況に応じ、食品の代替や食事形態の工夫など柔軟に支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開放的で明るく、日差しはカーテンやよしずで調整し不快な音や光がないように配慮している。壁飾りは四季を考慮した装飾を心がけている。馴染みの品やピアノなどが置かれ、居心地よく過ごせる共用空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼットやベット・洗面台が設置されており、家族の写真や掛け時計・位牌・ぬいぐるみ・テレビ・タンスなどが持ち込まれ、安心してその人らしく過ごせる居室である。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。